



西おきたま 雪若丸だより

雪若丸

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動 置賜地域本部 西置賜農業技術普及課

おいしい「雪若丸」づくりのポイントは

遅れず & 生育診断に基づく“食味重視”の穂肥を！

1 生育状況（西置賜農業技術普及課生育診断圃）

管内の雪若丸ほ場の生育は、移植時期によってほ場の生育差が大きい状況です。

出穂期は平年並み～3日程度早い見込みです。穂肥は**遅れず**行い、生育過剰な場合は施肥量を減らす等、“**食味重視**”の穂肥でおいしい「雪若丸」づくりに努めましょう。

「雪若丸」調査ほ場の生育状況（6月28日現在）

（ ）内は平年比・差

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	備考
飯豊町	45.1 (96)	677 (93)	10.2 (+0.2)	46.0 (-1.3)	5/18 移植
長井市	34.5	600	9.4	47.2	5/24 移植
白鷹町	35.6	535	9.3	43.4	5/24 移植
小国町	45.5	729	10.1	46.5	5/15 移植
指 標	41.0	590	9.3	43.0	

2 直ちに中干し・作溝を行いましょう！

- 中干しは田面に小ヒビが入る程度を基本とします。
- 生育量が大きい場合や、葉色が濃い場合は ⇒やや強めに
- 生育量が小さい場合や、葉色がさめかかっている場合は ⇒弱めに
- 作溝を行うことにより、出穂期～登熟期まで効率的な水管理ができます。

3 いもち病・斑点米カメムシ類の対策は万全に！

- いもち病の感染に好適な気象条件が発生しており、葉いもちの蔓延に注意が必要です。圃場をよく見回り、**早期発見、早期防除**を徹底しましょう。
- イネ科雑草が繁茂している**畦畔・農道等の草刈りを地域ぐるみで徹底**し、斑点米カメムシ類の生息密度低減に努めましょう。また、水田内のノビエやイヌホタルイなどの雑草は斑点米カメムシ類の水田侵入・増殖を促します。**水田内の残草処理を徹底**しましょう。（※除草剤の使用の際は使用基準を遵守）

斑点米カメムシ類注意報発令

発生「多い」！

今すぐ草刈りを行い、斑点米カメムシ類の密度を減らしましょう！



アヒゲホトドリカスミカメ



アスジカスミカメ

4 「雪若丸」の生育診断について

目標収量 600kg/10a、検査等級 1 等、
玄米粗タンパク含有率 7.5%以下（乾物換算）とする。

【前提条件】

中干しを行い、土壤環境を整え、うわ根を張らせ、穂肥のできる状態までイネを仕上げる。

- ・ 幼穂形成期まで葉色（SPAD 値）を 40 未満に低下させない。
「はえぬき」より、生育量が多くても中干しの強度を上げすぎない。
※「雪若丸」の葉色は「はえぬき」より、全般に濃く推移する。
偏穂数型で㎡茎数は「はえぬき」より、多くなる。

予想出穂期 8/1～4頃 → 穂肥時期の目安（出穂 25 日前） 7/7～10頃

【生育診断のポイント】

- 目標とする食味・収量・品質を確保するための生育指標（9.5 葉時）
茎数 750 本/㎡（坪当たり 70 株植え：35 本/株）以下
葉色 44（SPAD 値）以下
※㎡粒数を 30,000 粒程度とし、登熟を高めて、食味、品質を向上！
- 穂肥は出穂 25 日前、窒素成分で 1.5kg/10a を基本とする。
生育診断結果により、次のように対応する

生育量	茎数	葉色 (SPAD)	追肥対応 (8月3日出穂の場合)
生育不足	560 本/㎡未満	40 未満	早めの穂肥 出穂 30 日～26 日前 (7月4日～8日頃) N成分 1.5kg/10a
適 正	560～750 本/㎡	40～44	出穂 25 日前 (7月9日頃) N成分 1.5kg/10a
生育過剰	750 本/㎡以上	44 以上	出穂 25 日前 (7月9日頃) 葉色の低下を確認し、減肥対応 N成分 1.0～1.2kg/10a

農作業事故・熱中症に注意！

- ◎ 「もうちょっと…」という無理が重大事故につながります。
- ◎ 暑い日が続きます。熱中症予防のために水分補給と休息をしっかりと取りましょう！

山形県農薬危害防止運動実施中！～農薬を使用する際は使用基準を再確認！その都度記帳！～